

# 進捗報告書（実行団体）

Version 1.0

2021年10月5日

事業名:	少女の避難基地と夢を育てる事業
資金分配団体:	特定非営利活動法人信頼資本財団
実行団体名:	一般社団法人京都わかくさねっと
実施時期:	2021年5月～2022年2月
事業対象地域:	京都府
事業対象者:	若年女性

## I. 事業概要

### 事業概要

コロナウイルスの流行は、社会的にも不安定かつ流動的な立場にある少女たちを更なる窮地に追いやり、貧困や暴力、虐待等の被害が拡大し、望まない妊娠や若年女性の自殺者の増加が社会問題になっています。それらに対して行政はさまざまな対策を実施していますが、相談を主とするフォーマルな支援では、自身の課題に気付いていない少女には届きにくく、ひとりひとりに寄り添うインフォーマルな支援の必要性が言われています。

当事業は、少女たちの居場所「わかくさりビング」を開設し、地域のなかに、いつでも相談できる話し相手と、温かい夕食を提供する信頼できる大人、学びや体験のワークができる機会をつくることで、困難を抱えた少女とつながり、悩みや本音の言える関係をつくります。また継続的な寄り添い支援を必要とする少女に対して、困難を抱えた女性たち自身が、ピアな関係で支え合うための場づくりを行い、共に活動することで、自分と向き合い、他者との信頼関係を構築し、自立への機会を作ります。

また、それらの活動が持続可能なものとなるための組織基盤や資金調達のしくみを整えます。

## II. 進捗報告の概要

### 総括

#### ・「わかくさりビング」をつくる過程

場所の選定、コンセプトワーク、インテリア等を少女たちが主体となって活動しました。それらの過程で、少女たちが居場所を大切にする気持ちや、メンバーとの関係性が深まることになりました。

#### ・10月1日プレオープン

内容 ・水木金日開設。「おかえり」と晩ごはんを一緒に食べるシェアリビングとしての居場所

・まちの保健室機能。専門相談3回/月。自身の相談や振り返りができる機能

・スタッフは少女。少女たちが主体的に関われる経験と就労支援としての場

#### ・組織の整理と基金づくり

寄付を前提としたメディア戦略、HPの内容。

### Ⅲ.活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・少女の拠点「わかくさりリビング」が開設し、孤立した少女の居場所となる。</li> <li>・スタッフである少女が、活動を通して主体的に生きることができる。</li> <li>・活動に共感してくれる「信頼できる」大人が社会に増え、寄付が経営の基盤となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月1日開設。</li> <li>・スタッフの団結心が芽生え、メンターとなる存在が出てきた。</li> <li>・寄付誘導型HPを開設し、共感の窓口をつくった。</li> </ul>

活動	進捗状況	概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかくさりリビングの運営</li> <li>・HPの改訂</li> <li>・ロゴの制作</li> <li>・リーフレットの制作</li> <li>・広報紙の発行</li> <li>・組織基盤づくり <ul style="list-style-type: none"> <li>事務局体制づくり</li> <li>会計の明瞭化</li> <li>寄付基盤の確立</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10/1 開所。</li> <li>10/1 リニューアルオープン</li> <li>9月決定</li> <li>10月中旬に発行</li> <li>イメージ等</li> <li>フレームづくり</li> <li>事務所の開設</li> <li>税理士の検討</li> <li>寄付の内容検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週、水木金日曜日 計80回</li> <li>今後クレジットカード決済導入予定</li> <li>看板等制作予定（10月中）</li> <li>A5サイズ</li> <li>1月1日発行予定</li> <li>専門家をいれてフォーマットに落とし込む</li> <li>スタッフの雇用</li> <li>会計システムの導入</li> <li>集金システムの導入</li> </ul>

### Ⅳ. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
<p>事業目標は、「リビングの機能が定着する」ことと「寄付で資金調達できる事業にする」のふたつ。</p> <p>10月1日のオープンから、まだ1週間あまりであるが、少女たちが集まってきては思い思いの時間を過ごしている。とくに夕食時は、仕事帰りの少女たちも集まり、にぎやかに夕食を共にする時間が定着した。</p> <p>「悩みを聞いてほしい」とやってくる少女もいる。地域のなかに、少女の話聞く機能とくつろげる居場所が必要なことがわかり、営みを続けていく予定である。</p> <p>資金調達のしくみづくりは、まだHPを立ち上げたばかりだが、サイトから寄付の入金があり、可能性を大いに感じている。今後、組織体制の充実と共にソフトハードの両面で共感を寄付に繋げるしくみをつくり、目標を達成したい。寄付者に対してフォローをどうしていくのか今後の課題である。</p> <p>一方で、近隣との関係での開所時間の制限、宿泊の不可、就労人数の限界等、現在の居場所では抱えきれない課題があることがわかり、さらなる目標がみえてきた。</p>

### Ⅴ. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	¥0	¥9528000	¥9,528,000	¥1523029	16.0%

	管理的経費	¥0	¥502000	¥502,000	¥61998	12.4%
合計		¥0	¥10000000	¥10,000,000	¥1,585,027	15.9%
補足説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居場所開設に掛かる、改修費、電気製品、家具等の購入費は10月</li> <li>・スタッフ雇用費は10月から本格始動</li> </ul>					

## VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
<ul style="list-style-type: none"> <li>・居場所を開設するにあたり近隣への理解  地域には、少女の居場所＝非行少女のたまり場＝環境の悪化等の意識が根強くあり、物件交渉時から行政の物件含め、なかなか成約に至らなかった経緯や、開所後も住民説明会等の開催等の課題を抱えている。まずは地域に受け入れられる活動を目指して、挨拶の励行、規則の強化や掃除、居場所での交流、地域活動に積極的に参加する等を実施し、地域住民から理解してもらい、信頼できる大人を増やすためにも、関係づくりに努めていく所存である。</li> <li>・組織の決定事項のスピード化  当団体の母体は、行政が管轄する旧来の各種団体であるため、決定事項はあらかじめ準備された会議の中で審議される。緊急事態宣言下のなか、面前での会議が制限されるため審議が進まず、決定事項が申し送られる事項が増えていった。また契約等についても、責任の所在があやふやなため、進まない事項があった。  一方で、居場所におけるさまざまな人的支援の現場では、決断一実施においてスピードが求められる。  組織基盤づくりとともに、立ち上げの際の意思決定のスピードアップのため、9月に初めてオンラインでの理事説明会を実施。今後はスタッフの自主性を活かした組織づくり等を模索している</li> </ul>

## VII. その他

自由記述

## VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読売新聞 (8/30、10/9)</li> <li>・市民しんぶん (京都市7/1号) 記事</li> </ul>
広報制作物等	有	HPの改訂 活動に共感し寄付へと繋げる構成へ
報告書等	無	

## IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	社員総会、理事会を開催。別途、説明会を2回実施。	居場所づくり事業の了承を得ると共に、組織の改革についても合意を得た。
2. 内部通報制度は整備されていますか。	いいえ	メンバーが直接、理事等と話す機会を何度か設けており、そこで活動への要望や意見を述べている。 また、それらの意見に対して、理事から実施責任者へ指導がある。